

持続可能なランドスケープの設計 ～天白川水系から世界を俯瞰する～

持続可能なグローバル社会の実現のために、外部組織と連携したコンソーシアムを構築し、地域と国際社会が抱える諸問題を解決できる人材の育成を目的とした教育カリキュラム開発を実施する。本研究開発目標を実現するために「地域と連携したランドスケープ推進コンソーシアム構想」、「グローバル型地域協働教育カリキュラムの構築」、「国際教育とキャリア教育の再編成と体系化」を実践する。また、地域課題研究は水という大きなテーマを世界的な社会課題から調査研究すると共に、天白川水系を多様な視点から眺め、その環境の持続性と地域社会と共存できるランドスケープの在り方を研究する。

【コンソーシアム】

海外交流アドバイザー（JTB国際交流センター 中野憲 氏）
 地域協働学習実施指導員（天白川で楽しみ隊・代表 岡田あつみ 氏）
 名古屋商科大学
 日進市市民生活部市民協働課 ・ le Lycée Georges Clemenceau de Reims ・ Immaculate Conception School of Baliuag ・ 国際連合地域開発センター ・ 公益社団法人 名古屋青年会議所 ・ 公益財団法人 名古屋国際センター ・ グリーンフロント研究所 ・ 認定NPO法人 アイキャン ・ 公益財団法人ユネスコ ・ アジア文化センター（ACCU） ・ 独立行政法人 国際協力機構中部国際センター（JICA中部）等

【運営指導委員】

北村友人氏（東京大学准教授） ・ 伊藤博氏（名古屋商科大学教授）

【国際教育推進委員会】

名古屋国際中学校・高等学校教員

- コンソーシアム実施規定の作成と組織化
- 報告会における助言
- グローバル探究コース新設にあたるカリキュラムの検討

令和元年度の目標

- (a) アカデミック・スキル獲得プログラムの構築
 国際理解研修のグローバル化
 プレゼンテーション、スピーチ等による
 コミュニケーション力の獲得
- (b) コース・教科横断型指導法による
 先進的な学習スタイルの構築
 SIA特論の多様化
 SDGsを軸にした横断的教科教育
- (c) グローバルキャリア教育の構築
 総合的な探究の時間
 →地域キャリアに関する実践
 国際理解講演会
- (d) 地域課題研究
 コンソーシアムゼミの運用
 →現地調査と課題の設定
 コンソーシアムとの対話
 （グローバルリーダーへの取材）
 コンソーシアムとの協働活動

取組状況

- 地域協働コンソーシアムゼミ：13名参加
 →天白川フィールドワーク・名古屋商科大学講義及び専門家による協働現地査
 国土交通省にて発表等
 →取材活動：内閣官房まち・ひと・しごと
 創生本部事務局次長/元国連事務次長
 元政策研究大学院特任教授/一般企業創立
 者など
 →啓発活動：環境デーなごや等の地域イ
 ベントに出展、事例発表
- 国際理解研修：マニラ研修、シンガポ
 ル・マレーシア研修 によるフィールド
 ワークの実施及び活動報告会の実施
- 報告会の実施（12月・2月）
- 企業協働事業：三菱電機ブースにて実践
 活動プレゼンテーション（12月東京
 ビッグサイト、エコプロダクツ2019）
- 地域キャリア→総合的な探究の時間
 名古屋市長や一般企業へ
 の取材とプレゼンテーションの実施
- タブロイド判広報紙の発行：4回

成果と課題

[A] 主な目標設定値の成果

- ・アクティブラーニングの実施授業数→1236回
- ・公的機関から表彰された生徒、公益性の高い国内外の大会における入賞者数→10名（SDGsまちづくりアイデアコンテスト優秀賞など）
- ・地域課題研修の発展学習として実施する海外研修に行く生徒数→54名
- ・受け入れ課外留学生数→8名
- ・地域課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が研究成果報告会に
 参画した延べ人数→10名

[B] 課題から見えた2020年度の計画

- ・授業内容や海外交流等の具体的な数値をカウントする仕組みに脆弱性
 がある→報告書の細分化をし、提出を義務化する仕組みを構築
- ・コンソーシアムの一部のステークホルダーとの実践は実施されている
 →次年度は広い分野の専門家との関係性を強化していく仕組み構築

[C] 主な新しい取組

- ・グローバル探究コース新設：総合・SIA Skillsのグローバル化
- ・国際理解研修 グローバルコース新設：ベトナム・カンボジアコースを
 全高校2年生参加可能にした各科横断プログラム
- ・ICTの活用：スタディサプリの導入によるWeb授業・課題の展開